

25	<p>今から38年前、初任校である、奈良県最南端吉野郡の小規模中学校で出会った子どもたち。私は、ものづくりの教科、技術科を担当していました。村の特産である杉や檜の板材を加工して、マガジンラックやカセットケース等を作り上げた時の子供たちの、眩しいくらい嬉しそうな笑顔と目の輝きを今でも忘れることができません。あの時の子どもたちも、今では50歳を超え、社会の中核を担う人材として、自分の進む道で活躍してくれていることと思います。当たり前のことですが、学校というものが存在するのではなく、そこに集う人々が存在するのです。この春3月で、私は教職を退職します。今後どんな人生を歩んでいくのか、変遷をたどるのか知る由もありません。けれども、これからも、新たな人々との出会いを大切に、そして楽しみにしていきたいと考えています。</p>	26	<p>私は、奈良県でお世話になる以前、会社員を経て他府県の私立高等学校で勤務させていただいておりました。教員として初めての勤務校でしたが、私学ということもあり、当時は教務として「学科改編」作業などにも携わっており、学級担任・授業担当としての業務の後、連日、校内の調整や提出書類の作成など、夜遅くまで作業に追われる毎日を過ごしておりました。</p> <p>準備もままならず授業に臨んだこともたびたび。教員歴も浅く、非常に元気な生徒たちとがっかり合うこともしばしば。そのような中「あれ？今日は静かやな。まあええか。」と思うことが多くありました。いま思えば、疲れた私に気を遣わせていたのでしょうか。</p> <p>奈良県に勤務を移したのち、県外へとたまたま用事で訪れた場所で、その頃の生徒達から「先生。覚えてるか？」と声をかけられることが幾度がありました。</p> <p>そのような偶然的の機会を得るたびに、当時このことを少し申し訳なかったと思うとともに、改めて教師になってよかったなと懐かしく振り返っています。</p>	27	
28	<p>3年間全ての学期で補習を受けていた生徒がしつかり卒業していった。</p>	29	<p>4月当初は泣いて登校していた児童が、今は毎日楽しそうに学校に登校し元気な声で教室に入ってくる姿を見るととても元気になります</p>	30	31
32	<p>いつも底抜けに明るい子や、いつでも自分の目標を達成するために頑張る子</p>	33	<p>コロナ禍でマスクをしている子どもたち。いつか安心してマスクを外せて、みんなの笑顔が見られる日が来ると願っています。</p>	34	35
36	<p>どの子も可愛いです。</p>	37	<p><伝説(?)の放送委員長> 放送のトラブルがあれば、真っ先に駆けつけたり、必要な機械類の購入を担当教師に指示したり、自ら修理したり…今は、某自動車メーカーの開発チームで頑張っています。</p>	38	39
41	<p>運動会で、必死にソーランを踊ったり、野外活動のキャンプファイヤーで思いっきり楽しんでいる子どもたち。</p>	42	<p>何事にも一生懸命に取り組める子どもたち</p>	43	44
			<p>新任で配属されたへき地校の卒業式は、心を打たれました。子ども一人一人の親御さんが、目に涙を浮かべ卒業後の子どもたちが家を離れる寂しさが伝わってきました。</p>	<p>現勤務校に赴任してきたときの着任式。はじめて足を踏み入れる体育館で笑顔で壇上まで誘導してくれた生徒会役員さんの笑顔が頼もしくうれしく感じました。</p>	

45	最初に担任した子どもでよくケンカあったけど、最後はクラスまとまることができたクラス	46	修学旅行を終えて、生徒たちに「修学旅行に行かせて頂きありがとうございました。大変楽しかったです。」と言われた時、何故かほっとしました。本当に生徒たちに救われました。	47	初めて6年生を担当した年 阪神淡路大震災がありました。こちらから指示したわけではありません。自分たちで学級会を開き、物資や募金を集めて被災地に送るという活動をしました。自分たちに出ることを何かしなければと思ったのでしょう。その気持ちと行動力に感嘆したことを覚えています。	48	初めて肢体不自由の生徒を受け持った時、支援しなければ、という私の心配をよそになんでも自分でしたり、できるよう努力する姿を見て、支援は出来ないことを代わりにするのではなくて、できるようにサポートすることだと言うのを改めて感じたことがあり、それが印象に残っています。
49	小学校6年生を担当した年の3月。私は転勤が決まりました。彼らが中学生になった姿が見れないのは少し残念だと思っていた出勤最終日に、たくさん子どもたちが私に見せるために新しい中学校の制服を着て訪ねてきてくれました。とても幸せな気持ちになり、心に残っています。	50	近年、ICT機器を使用して学習する環境が必須となり、機器操作が苦手な子どもたちも手探りで技能を習得しています。子どもたちの能力に驚かされる毎日です。 学校で顔を見合わせて話をする時間が減ったためコミュニケーションが薄くなり、気持ちの行き違いが起きています。しかし、現代っ子の子どもたちはSNSでアポを取り、数少ない登校の中で対面で会話をして心の溝を埋めています。機器操作とともに「今を生きる」子どもたちの、「新しい生活様式」が今後も円滑に進むことを願います。	51	深い絆の6年生 現在、担任している児童たちについてです。御所市立秋津小学校は、人数は少ないものの素直で優しい子たちばかり。私のクラスも7人というのですが、人数の少なさを感じさせないくらい一人ひとりがすてきな個性をもっています。子どもたちも、自分たちを表現する時、「第2の家族」と言っています。それくらい学校や仲間のことを大切に思ってくれています。そんな子どもたちをこれからも大切に、卒業まで、さらに絆を深めることができればと思っています。	52	親の仕事の都合でタイの日本人学校に通う女の子が、1か月だけ日本に帰国し、担任したことがありました。小学校一年生でしたが、すぐに友だちと打ち解け、ケンカもしながら仲良くなったころに帰って行きました。子どもたちの柔軟性に学ぶことの多いひとときでした。
53	先生になって1年目、十津川の小学校に勤務していたのですが、その当時は非常勤で介護休暇の代わりに着任したので、かわいい子どもたちと1ヶ月でお別れすることになりました。先生になりたてで、知識も技術も不十分だったのにも関わらず、転勤してもその当時のことを覚えてくれていて手紙をくれる児童がいて嬉しかったです。今も元気にはしていますように。	54	全員笑った瞬間	55	着任初年度に担任した学年で県の音楽会に向けて練習を重ね、意欲的な子どもたちと「ふるさと」「カントリーロード」を遠足のバスの車内や見学先など、いろいろなところで歌ったことが、心に残っています。	56	毎日、童心にかえて楽しく生徒たちと戯れています。純粋な彼女らは私にとってかけがえない人々です。毎日大変楽しく過ごせており、本当に幸せです。
57	不登校傾向だった生徒が、進路決定にむけて登校を再開し、目標を実現できたこと。その後、高校では欠席なし。	58	部活で指導してきた子供たちが今あちこちで立派な大人になって頑張っている姿をSNS等でよく見かけるのが楽しみです。	59	放課後一輪車や鉄棒で遊んだ子ども達 今は、そういう交流がなくなりました。忙しくなったのか…	60	